

# 配水管工事標準仕様書 改定の要旨

ページ	改 定 項 目	主 な 改 定 内 容
目次-1	1.1.24 工事現場の環境改善	○ 工事現場のイメージアップを工事現場の環境改善に変更した。
20	1.1.24 工事現場の環境改善	○ 工事現場のイメージアップを工事現場の環境改善に変更した。
21	表 1.4 工事現場の環境改善対策	○ 工事現場のイメージアップ対策を工事現場の環境改善対策に変更した
55	表 2.2 レディーミクストコンクリートの仕様	○ コンクリートの種別をJIS表記名に変更し、JIS表記と旧種別との対応表を示した。
140	3.7.9 水質監視	○ 観測井に使用する硬質塩化ビニル管（内径100mm）を（内径40mm）に変更した。
175 176-1 176-2	4.2.8 US形ダクトイル鉄管の接合	○ US形ダクトイル鉄管の継手方式にR方式（呼び径2400、2600）を追加した。

※次頁以降の改定原稿の赤書きが、今回の改定箇所となります。

# 配水管工事標準仕様書

## 目 次

第1章 総 則 .....	1
第1節 一般事項 .....	1
1.1.1 適用範囲及び一般事項 .....	1
1.1.2 用語の定義 .....	2
1.1.3 監督員の権限等 .....	5
1.1.4 設計図書の照査等 .....	6
1.1.5 受注者相互の協力 .....	6
1.1.6 調査・試験に対する協力 .....	6
1.1.7 設計図書の変更等 .....	7
1.1.8 工事の一時中止 .....	7
1.1.9 工期変更 .....	9
1.1.10 出来形数量の算出 .....	10
1.1.11 部分使用 .....	10
1.1.12 履行報告 .....	10
1.1.13 日雇労働者の雇用 .....	10
1.1.14 環境対策 .....	10
1.1.15 文化財の保護 .....	15
1.1.16 諸法令等の遵守 .....	16
1.1.17 官公署等への手続等 .....	16
1.1.18 不可抗力による損害 .....	17
1.1.19 特許権等 .....	18
1.1.20 保険の加入及び事故の補償 .....	19
1.1.21 臨機の措置 .....	19
1.1.22 提出書類 .....	20
1.1.23 住民に対する広報等 .....	20
1.1.24 工事現場の環境改善 .....	20
1.1.25 I C T等の活用 .....	21
第2節 着 手 .....	21
1.2.1 工事の着手 .....	21
1.2.2 測 量 .....	22
1.2.3 工程表の提出 .....	22
1.2.4 施工計画書 .....	22
1.2.5 現場事務所、材料置場等 .....	23

#### 1.1.22 提出書類

##### (2) 天災等

監督員は、天災等に伴い、工事目的物の品質・出来形の確保及び工期の遵守に重大な影響があると認められるときは、受注者に対して臨機の措置をとることを請求できるものとする。

##### (1) 一般事項

受注者は、工事に必要な提出書類を、「水道工事用書類・様式の記載例集」（以下「記載例集」という。）及び「委託標準仕様書」により作成し、指定の期日までに監督員に提出すること。

##### (2) 提出書類

受注者は、記載例集及び委託標準仕様書に定めのない書類を提出する場合は、監督員の指示によること。

##### (3) 変更書類の提出

受注者は、提出した書類に変更が生じたときは、直ちに変更した書類を監督員に提出すること。

#### 1.1.23 住民に対する 広報等

受注者は、現場付近の住民に対し、工事内容について具体的な説明を行い、施工について協力が得られるよう努めること。

なお、住民への説明の時期、方法、内容等については、監督員と打合せを行うこと。

#### 1.1.24 工事現場の 環境改善

##### (1) 環境改善の目的

工事現場の環境改善は、地域との積極的なコミュニケーションを図りつつ、そこで働く関係者の意識を高めるとともに、関係者の作業環境を整えることにより、女性や若手の活躍支援の取組等を進め、公共事業の円滑な執行に資することを目的とする。

##### (2) 地域との連携

受注者は、現場条件や経常的な維持工事等で環境改善の必要性のない場合を除き、工事現場の環境改善の方針を当局と協力しつつ地域との連携を図り、適正に工事を実施すること。

##### (3) 報告書の提出

受注者は、工事現場の環境改善の具体的な実施内容及び実施期間について施工計画書に含めて提出し、工事完了時には実施写真を添えた報告書を監督員に提出すること。

##### (4) 実施内容

工事現場の環境改善の具体的な実施内容は、環境負荷の低減対策（低公害かつ低燃費な自動車、低電力型照明器具等の導入）を実施すると

もに、表1.4に挙げるもののうち、原則として計上費目ごとに最低一つと併せて、合計五つとする。

なお、選択に当たっては、現場状況に応じて適切な組合せを行うこと。

表 1.4 工事現場の環境改善対策

計上費目	実施内容
仮設備関係	①環境負荷の低減 ②用水、電力等の供給設備の設置 ③緑化・花壇の設置 ④ライトアップ施設の設置 ⑤見学通路及び椅子の設置 ⑥昇降設備の充実
営繕関係	①場事務所の快適化（女性用更衣室の設置含む。） ②労務者宿舍の快適化 ③デザインボックス（交通誘導警備員待機室）の設置 ④現場休息所の快適化 ⑤健康関連設備及び厚生施設の充実
安全関係	①工事標識、照明等の安全施設のイメージアップ（電光標識等）の実施 ②盗難防止対策（警報機等）の実施 ③避暑（熱中症予防）、防寒対策
地域とのコミュニケーション	①完成予想図の掲示 ②工法説明図の掲示 ③工事工程表の掲示 ④デザイン工事看板（各種事業のPR看板）の設置 ⑤見学会等の開催（イベント等の開催含む。） ⑥CCI東京見学情報館への登録 ⑦見学所（インフォメーションセンター）の設置及び管理運営 ⑧パンフレット・工法説明ビデオの作成 ⑨地域対策費（地域行事等の経費を含む。）の計上 ⑩社会貢献

#### 1.1.25 ICT等の活用

受注者は、建設現場の生産性向上を目的として、監督員と協議の上、ICT等を活用することができる。

## 第2節 着 手

#### 1.2.1 工事の着手

##### （1）工事着手前の打合せ

受注者は、工事着手に先立ち、監督員と施工上の条件、注意事項等工事全般にわたり打合せを行い、指示事項の確認及び調整を行うこと。

##### （2）工事着手前の調査

受注者は、工事着手に先立ち、官公署、各埋設物管理者等の許可条件等を確認するとともに、施工区域全般にわたり地上・地下工作物の種類、位置及び規模等を管理台帳、現場踏査等（試験掘は除く。）により調査すること。

表 2.2 レディーミクストコンクリートの仕様（JIS表記－旧種別対応表）

表記名	設計基準 強度 (N/mm <sup>2</sup> )	スランプ (cm)	粗骨材の 最大寸法 (mm)	種 類	種 別
普通18-8-20BB, 普通18-8-20N, 普通18-8-20H	18	8	20	管防護、立坑の無筋コン クリート、弁室等の 均しコンクリート等	BB182B, 182B, H182B
普通21-8-20BB, 普通21-8-20N, 普通21-8-20H	21	8	20	鉄筋の構造物（弁室・ 立坑）、無筋の構造物 （弁室等）	BB212B, 212B, H212B
普通24-8-20BB, 普通24-8-20N	24	8	20		BB242B, 242B
普通21-15-20BB, 普通21-15-20N	21	15	20	点検通路方式シールドトンネル の二次覆工コンクリート	BB212C, 212C
普通27-8-20BB, 普通27-8-20N, 普通27-8-20H	27	8	20	弁室等の頂版塊等	BB272B, 272B, H272B
普通30-18-20BB, 普通30-18-20N	30	18	20	場所打コンクリート杭 地中連続壁（水中用）	BB302D, 302D

(イ) スランプの許容差は、表2.3のとおりとする。

表 2.3 スランプの許容差（単位 cm）

ス ラ ン プ	許 容 量
8 及び18	± 2.5

キ 現場練りモルタル及び現場練りコンクリート

モルタル及びコンクリートの1 m<sup>3</sup>当たりの示方配合は、表2.4及び表2.5のとおりとする。

表 2.4 現場練りモルタル1 m<sup>3</sup>当たりの示方配合

名 称		セ メ ン ト (kg)	洗 砂 (m <sup>3</sup> )	洗 砂 利 (m <sup>3</sup> )	W / C (%)	ス ラ ン プ (cm)
モルタル	1 : 1	1100	0.75	—	60	—
	1 : 2	720	0.95	—	55	—
	1 : 3	530	1.05	—	55	—

### 3.7.9 水質監視

受注者は、薬液注入による地下水、公共用水域等の水質汚染を防止するため、次の要領で水質汚濁の監視を行うこと。

ア 受注者は、注入箇所及びその周辺の地形、地盤、地下水の流向等に応じて、注入箇所から10m以内に数箇所、適切な採水地点を設けること。

なお、採水は、状況に応じて観測井又は既存の井戸を利用して行うこと。

イ 受注者は、観測井の設置及び撤去に当たっては、次の事項に注意すること。

(ア) 観測井の位置は、監督員と協議すること。

(イ) 削孔に当たっては、清水を使用し、ベントナイト等は使用しないこと。

(ウ) 観測井は、硬質塩化ビニル管（内径40mm）を使用するものとし、地下水位以下の部分の管の両側に内径10mmの孔を20cmピッチに設けてストレーナとすること。

(エ) 観測井には、ネジ加工したキャップを取り付けること。

(オ) 測定終了後の観測井の処置は、監督員と協議すること。

ウ 受注者は、水質試験を現場での試験又は検査が可能なものを除き、公的機関及びこれに準ずる機関において行うこと。

なお、水質試験は、次の基準により実施すること。

(ア) 注入工事着手前 1回

検査項目は、表 3.8による。

(イ) 注入工事中 毎日1回以上

検査項目は、表 3.8による。

(ウ) 注入終了後

a 注入終了後の1回目の検査項目は(ア)に同じ。

b 2週間を経過するまで毎日1回以上。ただし、状況に応じて調査回数を減じて監視の目的が達成される場合は、監督員と協議して週1回以上とすることができる。

検査項目は、(イ)に同じ。

c 2週間経過後半年を経過するまでの間は、月2回以上。

検査項目は、(イ)に同じ。

d 現場における採水及びpH測定の方法は、監督員の指示による。

エ 受注者は、水質試験の測定値が表 3.8に定める水質基準に適合していない場合又はそのおそれがある場合は、直ちに工事を中止し、監督員と協議して、必要な措置を講じること。

オ 受注者は、水質試験の結果について記載例集「計画書等作成要領」の「注入工事施工計画書」中の水質検査結果集計表を作成して、監督員に

ただし、R方式については、(5) R方式の規程によること。

## (2) ビニルチューブ (VT) 方式

ア 受注者は、ロックリングを完全に挿し口外面に圧着させた状態で切断面の間隔 (a 1) を測定し記録すること。

イ 受注者は、受口の位置決めについては、ビニルチューブ取出し口を必ず管頂付近に来るようにすること。

ウ 受注者は、受口の溝にビニルチューブをねじれないように挿入すること。

エ 受注者は、ロックリングのセットに当たっては、ロックリングの切断箇所が必ず管底に来るようにすること。

オ 受注者は、挿し口を受口に挿入する前に、受口内面奥に表 4.21 に規定する胴付間隔に相当するディスタンスピースを置くこと。

なお、特別な理由で胴付間隔を変える場合は、その寸法のディスタンスピースを用いること。

また、使用したディスタンスピースは、接合完了後必ず撤去すること。

表 4.21 標準胴付間隔 ( 単位 mm )

呼 び 径	胴付間隔 (Y)
700 ～1500	105
1600 ～2400	115
2600	130

カ 受注者は、ロックリングが挿し口に充分装着されているかを確認すること。

確認方法は、挿し口を受口に挿入後、ロックリング切断面の間隔 (a 2) を測定して記録し、この時の間隔とアで測定した間隔 (a 1) とを比較し  $a 2 \leq a 1 + 3 \text{ mm}$  であれば正常と判断すること。

キ 受注者は、ビニルチューブへのモルタル充填に使用するモルタルの配合を水：セメント：砂 = 1：2：0.7 (質量比) とすること。

なお、充填は水密機構部の接合が終わってから行うこと。

## (3) セットボルト (SB) 方式

受注者は、(2) のア、オ及びカに準拠するほか、次の規定によること。

ア 受注者は、セットボルトを受口溝の内面までねじ込み、ロックリングを受口溝内にあずけ、この時ロックリングの分割部をセットボルト用タップ穴の間隔の最も狭いところの間中になるようにすること。

(5) R方式（呼び径2400、2600）（図4.19-1）

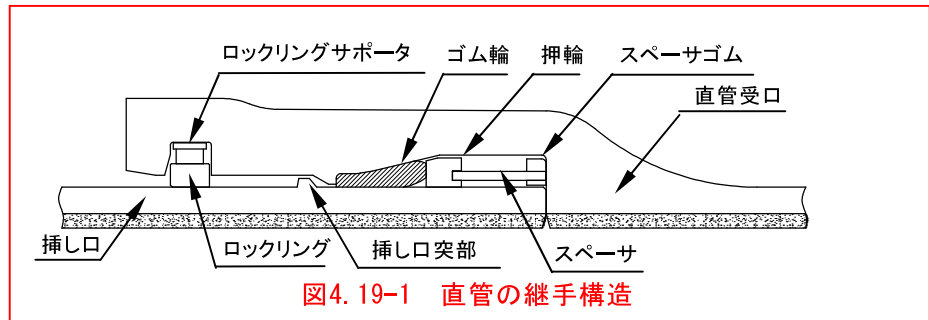


図4.19-1 直管の継手構造

受注者は、(2)のア及びエに準拠するほか、次の規程によること。

ア 受注者は、受口溝にロックリングサポータを装着する。ロックリングサポータは、支持ピース（SUS板）と樹脂ピース（樹脂板）を、連結ピースを用いて交互に組み立てること。（図4.19-2）

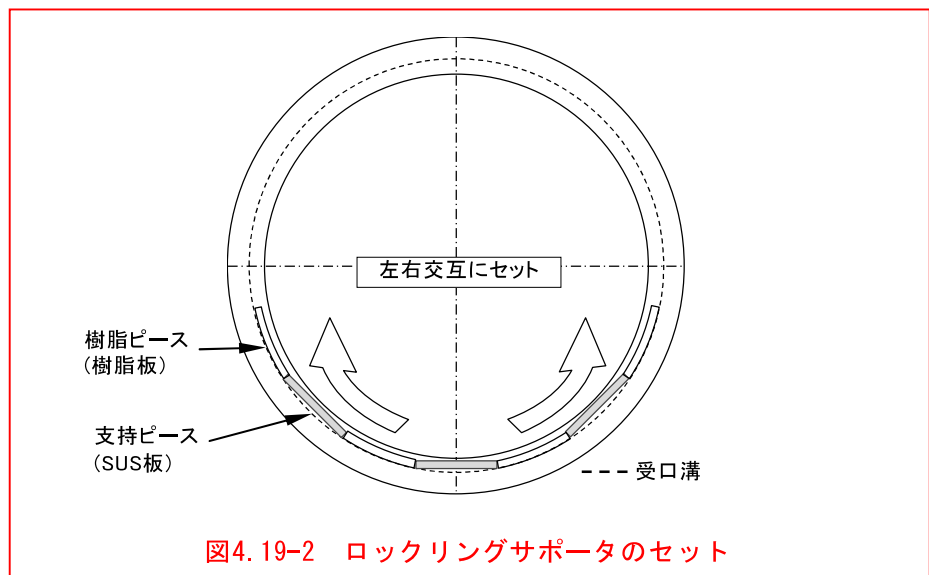


図4.19-2 ロックリングサポータのセット

イ 受注者は、ロックリング分割部をコイル状に重ね合わせ、受口溝内に預け入れること。

ウ 受注者は、ロックリング分割部を拡大器を使って拡大し、ストッパをセットすること。

エ 受注者は、挿し口端部から挿し口突部までの挿し口外面及び受口内面のゴム輪がセットされる部分にダクトイル鉄管継手用滑材を塗布すること。

オ 受注者は、接合に必要な胴付き間隔を確保するため、受口内面奥にディスタンスピースをセットし、ロックリングに挿し口が当たらないように注意しながら、受口に挿し口を挿入する。



ディスタンスピースに挿し口端面が当たるまで挿入したら、ストップを取り外す。

カ 受注者は、ロックリングが挿し口に十分抱きついていることを確認するため、ロックリング分割部の間隔（a2）を測定する。

（a2）寸法と接合前に測定した（a1）寸法とを比較し、 $a2 \leq a1 + 8\text{mm}$ であれば正常と判断すること。

キ 受注者は、ゴム輪の向きを確認して、挿し口に預け入れる。

ク 受注者は、押輪を下から順次挿入し、ピース毎に連結ピース・ボルトで固定する。（図4.19-3）

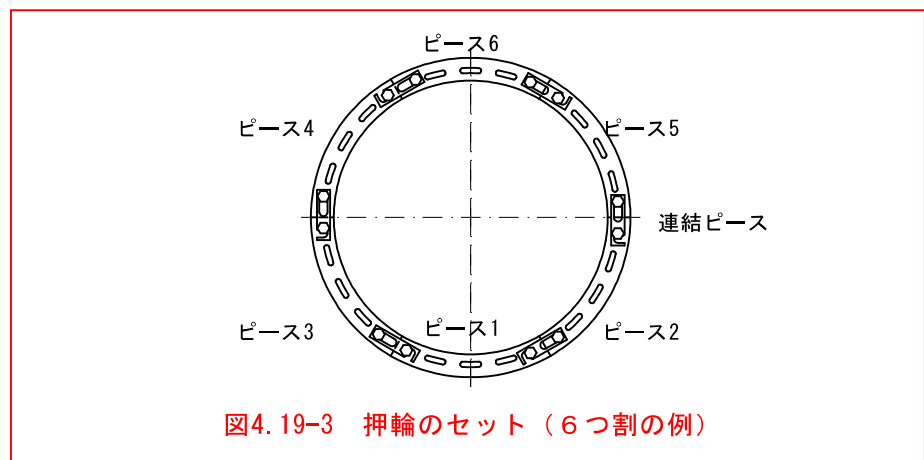


図4.19-3 押輪のセット（6つ割の例）

ケ 受注者は、専用の押込み治具を使用し、継手内にゴム輪、押輪を押込み、スペーサを押輪のスペーサ用穴（凹み）にセットする。スペーサは6つ割の場合、押輪1本当たり3カ所セットする。スペーサのセットは管下から順次、押輪1本毎に左右交互に行う。

コ 全てのスペーサをセットした後、全てのスペーサゴムが受口奥部に当たっていることを確認する。

サ 油圧ジャッキ等を用いて挿し口端部が受口奥に当たるまで、挿し口の再挿入を行う。

#### 4.2.9 PN形ダクタイル鋳鉄管の接合

受注者は、PN形ダクタイル鋳鉄管の接合については、次の規定によること。

##### （1）呼び径300～600の場合

ア ゴム輪の装着

ゴム輪を清掃し管受口に装着する。

イ ロックリングのセット